

今号の
トピックス

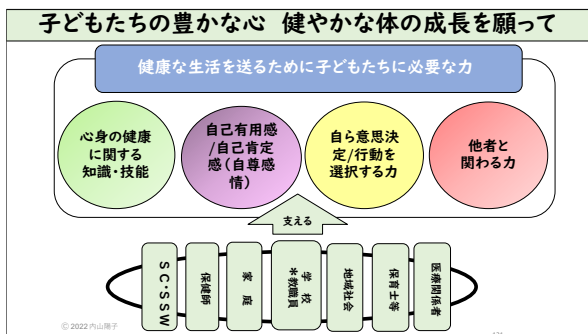
秋田発 地域連携で取り組む ネット健康教育活動

市町村におけるアウトメディア（ノーマディア）活動は、以前から各地で行われていました。その流れとは別にスマホの長時間使用による健康被害を危惧する方々が、養護教諭を核として学校で、また地域と連携した実践が生まれてきています。今回は、秋田県の小坂町の取り組みを支援している開発委員の内山陽子養護教諭にレポートして頂きました。児童・生徒の記録資料2点のデータも合わせて添付します。是非お読み下さい。

秋田県小坂町に根づく地域連携の取組

一地域に根付いた健康教育一

2019年度に秋田県北に位置する小坂町立小坂小学校でネットリスクに関する授業をしたことがきっかけとなり、それ以降、町内の中学校や県立高校へと関わりが広がり、授業や講演会を継続しています。今年度は、さらに町教育委員会から依頼を受け「就学時健康診断」時に保護者への講演を行いました。



小坂町は関わりを持った当時ですでに10年の取組実績があった地域で、学校を中心にみんなで“子どもの成長を支える”という体制が整っていました。

一啓発活動を通して大切にしていること一

組織活動の中心となり、多職種の方々とコーディネートしていたのは、学校で健康教育を担う保健主事や養護教諭でした。小坂町での関わりを通して学んだことは、啓発者はその組織が求めていることにしっかりと答えられるよう自己研鑽を積むこと、さらに、外部講師による単発な授業や講演会で終わらないよう事後に継続して取り組む課題を担当者と打ち合わせをし、準備することなどが知識の定着や行動変容を促すことに効果的であるということです。

《大切にしていること》

- ・事前の情報収集…児童生徒の生活実態や課題の把握
- ・担任の視点からの課題や要望の把握
- ・学習のねらいを明確に示し、学習内容に関する心身の発育・発達に関して、対象学年の理解力に応じた平易な言葉、スライドの工夫（シンプル、最低限のカラー使いやアニメーション）
- ・児童生徒の活動として、グループワークやワークシートを活用し、発表場面を設定し双方向型の学習を展開

- ・中学生には生徒自身から事前質問を受け付け内容に盛り込む、さらには、事後にも質問を受け付けし、文書で回答（拡大コピーし、掲示板に掲示できる）

鹿角市立尾去沢小学校・尾去沢中学校の取組

一教員の異動による新たなご縁・広がり一
教職員には定期人事異動があります。小坂町で一緒に取り組んだ先生が他市町村へ異動され、その地域で新たな関わりが広がっています。

2021年度からは小坂町と隣接する鹿角市立の学校での啓発活動の機会に恵まれています。啓発者として活動の広がりは大変嬉しいもので、パワーの充電が図られています。

どこの学校も苦慮しながらネット・ゲーム依存防止の取組を実践しています。今年度伺った中から尾去沢地区の実践が素晴らしかったのでご紹介します。

一参考として欲しい学校保健委員委員会の活動一

【第一部】小中合同保健集会

講演会「子どものネット・ゲーム依存」

小学校5・6年生、中学校1～3年生

小学校・中学校教職員、PTA 希望者

【第二部】学校保健委員会（小中から合計40名）

ワークショップ「メディアとのより良い付き合い方を目指して」指導助言（講師、学校医）

学校医、学校歯科医、学校薬剤師、PTA 会長

・副会長、母親委員、文化厚生部長、校長、

教頭、教務主任、担任、生徒指導主事、保健主事

養護教諭、中学校生徒会三役含む生徒8名

学校医や保護者、中学生も参加して、地域での取組について熱心にグループ討議がされました。最後に各グループ内の中学生からロイロノートを使用した全体への共有がされ、講演者として指導助言をし終了しました。講演会の1週間後、小学校では早速、メディア使用目標の協議が始まり、メディアとのより良い付き合い方に向けて一歩前進したと連絡がありました。

尾去沢地区で活用しているメディアコントロールについて別紙でご紹介します。是非、ご覧ください。

